

新年明けまして おめでとうございます

岐阜大学応用生物科学部
園芸学研究室
福井 博一
fukui@gifu-u.ac.jp

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~fukui/index.htm>

新たな卯年をお迎えして、新年のご挨拶をさせていただきます。
去年は政治、経済、国際情勢など不安定な年でした。今年はウサギのように飛躍できる年になると良いですねえ。

花き業界は、切花では急激な輸入の増加、鉢花では景気の低迷を受けて、灯りの見えない状況に陥っています。しかし、40歳代のインテリア志向やオールドローズマニアの増加など、新たな動きも見えています。こんな時こそウサギの耳を使って、販売店や消費者の要望に耳を傾けることで新たな打開策が見つかるのではないのでしょうか。やるべきことはまだまだたくさんあります。



アンゴラウサギのように、環境が変わるのをぬくぬくと待っている暇はありません。本来のウサギが持っている跳躍能力を発揮する意欲が求められています。



アマミノクロウサギは原始的な形態をもつ天然記念物です。変わらないことも大切ですが、生き残るためには時代の変化に適切に適応することも必要です。



中間管理職の副学部長を務めてはや3年になります。最近、不思議の国のアリスに出てくる「懐中時計をもったウサギ」ではありませんが、時間に追われて「もうこんな時間だ！大変だ！」と言っている毎日です。こんな生活で良いアイデアが生まれるはずもありません。今年は『心のゆとり』を大切に、多くの方々の意見を聞きながら、じっくりと先を見据えて大学改革に取り組んでいきたいと思えます。法人化後の大学では結構やりがいも多いです。

私が子供の時には根性物といえば「巨人の星」です。中学校の剣道部では神社の階段でウサギ飛びさせられました。根性だけで世の中がうまくいく訳ではありません。効率的な対応が望まれます。



月のウサギは眺める人によって形が違ふようです。しかし、真実は一つです。私も年齢を感じる歳になってきました。その時々々の価値観に左右されない本当の価値を見定めて、人生の拠り所としたいと思えます。





大学教員のセクハラ問題が頻繁にマスコミに取り上げられています。バニーちゃんに心を奪われるような歳ではありませんが、時々…。大学教育者として、品行方正な行動に努めることを心掛けます。人生V S O PのP (Personality)の歳になりました(2000/12/12の教授の一言コラム参照)。人間性が問われる年齢です。周囲から一目置かれる人を目指します。



Rabbit(ラビット)は今でも永遠の名機といわれるスクーターです。技術の日産の原点となったダットサン・ブルーバードのダットサンの名前は「脱兎のごとく走る」からきています。基本に忠実な技術力と夢を感じさせる提案は、必ず周囲からも高く評価されるはずで、私も後世に残る研究業績をあげていきたいと思ひます。



ウサギは、鳥獣人物戯画、イギリスのピーターラビットのように古今東西人間生活に密着した動物です。私も国内の花き生産者に頼りにされる研究者の一人となるように頑張りたいと思ひます。最近大学の仕事が多くなって現場に出る機会が少なくなっています。講演の依頼をお断りすることも多いのですが、昨年教授の一言コラムの投稿頻度を増やすように心掛けています。本年もご期待ください。



因幡の白兎は少々オッチョコチョイのウサギです。しかし、大国主命の慈悲を受けて救われ、大国主命と八上姫の縁を取り持つこととなりました。私の立場はオッチョコチョイの「白兎」かな？それとも慈悲深い「大国主命」？



不景気の中でも、積極的にネット販売などに取り組んでいる元気の良い生産者もおられます。しかし、有名な「ウサギとカメ」ではありませんが、現状に満足してはいけません。立ち止まった途端に大きなりスクが顔を出し始めます。常に前向きに歩み続けることが大切です。



お婆さんからみると、カチカチ山の兎は仇討をした英雄かもしれませんが、別の見方をするとチョットやりすぎの気もします。物事には必ず表裏があります。常に公正な立場で自分の行動を冷静に評価することが大切です。

ウサギは、医学・薬学の世界では実験動物として大きな貢献をしています。私も花き業界、大学に身を捧げることができる限りの貢献をしたいと思ひています。

